

共通教養科目について（2014年度入学者に適用）

本学の共通教養教育は、自立した良識ある市民としての判断力と実践的能力、国際的感性とコミュニケーション能力を有し、自ら成長することのできる人材を養成することを理念とし、その具現化を目指す以下の方針に基づいて教育課程を編成しています。

1. 学部・学科の枠組を越えた幅広い分野の共通する科目を履修することにより、神奈川大学の学生として身に付けるべき、広い視野と総合的な知性を涵養するための科目を配置しています。
2. 現代社会の諸課題や学際的分野等、時代の要請に応える内容を包括した科目を配置しています。
3. 学部専攻科目の導入教育と有機的に関連させるための科目を配置しています。
4. 大学生活に順応できるよう、全学必修科目としてFYS（ファースト・イヤー・セミナー）を配置しています。
5. グローバル社会において必要とされる外国語運用能力を身に付けるための科目を配置しています。
6. 世界の多様性の認識や異文化理解を促進するため、英語に加えて、韓国語、スペイン語、中国語、ドイツ語、フランス語、ロシア語を学べるよう科目を配置しています。
7. より高度な外国語運用能力を養成するため、各言語の基礎的な学力を身に付けている学生を対象に上級者向けの科目を配置しています。

共通教養科目は、1年次から4年次まで全年次を対象として開講されている科目です。下の図のようにいくつかの分野に分かれています。各分野には卒業までに修得しなければならない単位数（卒業要件単位数）が、また一部の学科では進級に必要な単位数が定められています。この単位数は、入学年度、学部・学科で異なりますので、必ず専攻科目のページに記載の「卒業要件」「進級要件」を確認してください。

共通教養科目										
共通基盤科目						共通テーマ科目				
FYS	外国語科目	人文の分野	社会の分野	自然の分野	人間形成の分野	グローバル経済を学ぶ	社会と人間	科学技術と社会	生と死を考える	公共の新しいかたちをもとめて

共通教養科目 共通基盤科目について

「共通基盤科目」では幅広い分野にわたる教養や基礎的学力、ジェネリック・スキル（一般的・汎用的な有用性をもつスキル）の育成を旨として、以下の科目を開講しています。

1 FYS（必修）

FYSは全学共通の初年次教育科目（必修）です。FYSとは、ファースト・イヤー・セミナー（First Year Seminar）の略で、新入学生（1年次生）は少人数のクラスに分かれ、“大学への入門”をセミナー（演習）形式で学びます。本学では、このFYSを通して新入学生が大学での学修により早く適応できるようにサポートしています。

2 外国語科目（必修）

今日のグローバル社会において、外国語運用能力がますます不可欠となっていることから、外国語能力の一層の充実を図っています。

3 人文の分野

過去から現在に至るまで、人はつねに「人間」の存在に関心を抱き、その探究に力を注いできました。「人文の分野」では、哲学・宗教・心理・歴史・文学・芸術などの諸分野の学習を通して、人間の存在に関わる様々な事柄とその本質、あるいは人間が生み出した多様な文化とその価値を、これまでよりも広く深く学び、豊かな教養を身につけることを目的としています。学生の皆さんには、この分野の学修を通して人間社会がこれまで積み上げてきた多様な価値観と豊かな文化を理解し、国際社会で通用する幅広い視野と文化的感覚・知的能力を培っていただきたいと思います。

4 社会の分野

現代社会は多様化と複雑化の一途をたどり、便利さと同時に様々な問題をも生み出しています。例えば、国境を越えたヒト・モノ・カネの移動は、政治や経済のみならず教育や文化、さらには環境や食品などの分野にも大きな影響を与えています。このような現代社会をどのように把握したらよいのでしょうか。「社会の分野」における科目は、現代社会の多様な諸問題に対して、学際的かつ多面的な把握をするために必要な、様々な学問分野の基礎的概念（理論と体系）を学ぶことを目的としています。学生の皆さんには、政治学、経済学、法学、社会学などそれぞれの学問分野の知識や思考方法を身につけ、多様な問題を解決するために必要な能力を修得していただきたいと思います。

5 自然の分野

人文、社会、自然など、どのような分野であれ、私たちが何かの対象について理解しようとするとき、ただそれらを漠然と眺めているだけでは対象を理解することはできません。対象を理解するためには、それにふさわしい言葉、方法、道具からなる枠組みが必要になります。私たちを取り巻く自然の成り立ちや変化、また私たち人間と自然との関わりを理解しようとするときに、必要となる基本的な言葉、方法、道具を提供するのが「自然の分野」の科目群です。具体的には、自然を表現するために必要となる普遍的な言葉（概念、数式等）を提供するのが数学関連の科目であり、これらの言葉を用いて自然の成り立ちや変化を理解する方法と道具を提供するのが物理、化学、生物関連の科目です。さらに、これらの基本的な科目が、実際の社会でどのように応用されているかを知るのが工学関連の科目です。また、自然の分野を学ぶ上で必要となる、情報処理の考え方と方法を提供するのが情報関連の科目です。

自然の分野における考え方・方法と、人文や社会の分野における考え方・方法との違いを知ることが、自分の理解の幅を広げることにつながりますので、人文や社会の分野と自然の分野をバランスよく履修することを勧めます。

6 人間形成の分野

「人間形成の分野」は、「幅広い教養と人間形成」を育むための分野として、本学での学びを人間形成の観点から自覚的に捉えることを促す主旨で設置しています。具体的には、自己表現力や対人関係力のほか、自ら課題を見つけ、解決へと導いていく問題解決能力を養う「キャリア形成に関する科目」、健康に関する理論と運動実践を通して、社会生活につながる健康の自己管理のための動機付けとなる知識とその方法を学ぶ「健康科学に関する科目」、及び創立者である米田吉盛の教え、本学で学んだ人たちの足跡を知ることによって、学びの原点を発見し、本学での学修を人間形成の観点からより深めることを狙いとした「神奈川大学の歴史と建学の精神」を配置しています。

共通教養科目 共通テーマ科目について

「共通テーマ科目」は、現代の諸課題を扱うため、学際的性格あるいは既存の学問分野を越境する性格をもつ科目で、学生が世界と自己との関係性を自立的・主体的に捉えるという基本的視座の形成に資することを目標としています。

こうした主旨・目標にもとづいて、「現代社会と市民」をテーマとし、現代社会における市民の生存、生活、活動にかかわる諸課題を取り上げ、既存の学問分野に収まりきれない学際的な科目として次の5つのサブテーマに基づいた科目を開講しています。

- (1) グローバル経済を学ぶ (2) 社会と人間 (3) 科学技術と社会 (4) 生と死を考える
- (5) 公共の新しいかたちをもとめて